

成人向け



目撃者



弥彦が山で柴刈りを
していると
近くで鳥の鳴き声が



むかしある山に
童が一人で住んでおった
名は弥彦というて
早うから両親を
病で亡くし

ようやく一人で生活するのに
慣れてきたところじゃった



行ってみると鶴が一羽
罌にかかっておった
これも誰かが
生きるため
そう思うたが
目の前で
苦しそうに
暴れる
鶴を見ると
このまま去るのは
心苦しい



そして亡き母が
生前よう語ってくれた
「サギの恩返し」の
話を思い出し
内心獵師に謝りつつも
鶴を助けてやった



その日の晩は雪が降った
弥彦が家で夕食を食べていると
戸を叩く音があった。



出てみるとそこには年の頃十八、九ほどの
美しい女がおった



女は旅の者で
雪が降ってきたので道に迷うてしまい
雪が止むまで置いてほしいと頼むのじゃった

もしや...と思うた

弥彦じゃったが
断る理由もなし

中に入れてやり

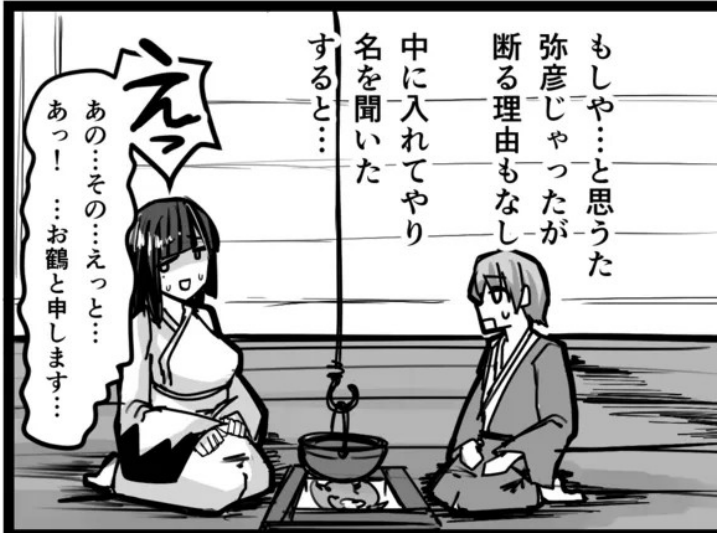
名を聞いた

すると...

えっ

あの...その...えっと...

あつ!...お鶴と申します...



しかしその割に

お鶴はよう

家事をこなした

雪は日に日に

激しさを増し

外には出られなんだが

大雪の備えはしてあったので

一つ屋根の下

床に入るも風呂に入るも一緒

思春期の男の子には

嬉しいんだか辛いんだか

わからぬ日々が続いた

わしはぶっちゃけ

すげえ羨ましい



ある日のことお鶴が

「少し秘め事がありますので

決して中を覗かないでくださいまし」

と言うてきた

この頃には弥彦はお鶴に

気取られぬよう胸ばかり見ておったし

お鶴もそれに気づかぬフリをしておった



少し経ち

中から苦しそうな
声が聞こえてきた
開けてはならぬと
言われたが
何かあったのではと思い
戸を開けてしまった
開けてはならぬと言われてから
二十三日 世界新じゃった



なんと秘め事とはほんに秘め事じゃった
弥彦の劣情を一身に受け
元よりショタコンの気があった
お鶴の身体は
どうしようもなく
火照ってしまったのじゃった



獣が生まれた

歳の割に弥彦の一物は大きく
お鶴の感じる所を的確に突いていった
お鶴もやられる一方ではなく
時に馬乗りになり女を教えた

互いに貪るような
激しいまぐわいで
それは翌朝まで続いた

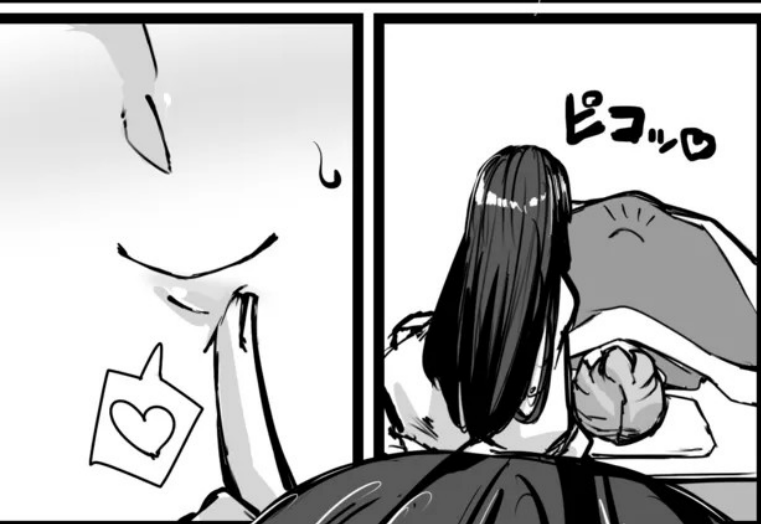


両親のいない心優しい男の子
せめて何か穴埋めができれば…

これがノープランで共に
生活した末たどり着いた
お鶴なりの恩返しじゃった
一冬の思い出で終わらせるつもりが
互いに互いのことを好いてしまうた
そして存外身体の相性が良すぎた

山に住む他の者には
姉弟としてふるまい
家に帰れば…
そんな関係になり
末永く幸せに暮らしましたとき









むかし
ある大きな村に
それはそれは
強欲な長者が
おっての



村人への施しもせんと
よその村の何倍もの
年貢を納めさせとった



そんな
だから
村人からは影で
ドケチ長者、タヌキ長者
死にぞこないのクソチビハゲ
肥溜め馬糞野郎
などと呼ばれておった

このままでは
皆生活できぬ
村人は集まって
何か良い方法はとい
話し合った

しかし案は出ず
皆頭を抱えておった

そんな中
一人の男が
名乗りをあげた



このどこか見慣れた
男の名は彦作
寡黙な男であったが
真面目で優しい男なのは
村の皆知っており
人望のある男じゃった

彦作はこれをおうにかできるやもしれん者に
心当たりがあると言うて出て行った





彦作は
村外れの
家の裏にある
山に向かって
大声でその者を
呼んだ



その者とは裏山に住む
キツネどんじやった
彦作とキツネどんは
昔からの友人で

此度の彦作の頼みも
全部オラに任せとけと
快く引き受けてくれた



さて肥だ…今のはノーカン
長者には歳の離れた十半ばほどの一人娘がおつての
これがまた長者には似ても似つかん
可愛らしい子じやった

性格も長者とは
正反対の優しい子で
村人もなしてあのような子が
あの強欲長者から…なんぞよう話しとった



キツネどんは「ちよつくら娘と話してくるで」
そう言つてさつさと出かけていってしまった



その日の晩の
ことじやった

村には娘の姿があつた

じゃがどこか
様子がおかしい



月明かりに
照らされた
その姿は
着物二枚
身に着けておる
のみでな
息は荒く
目は虚ろ
頬は紅潮し
口元は妖しく
笑つとつた

そんな出で立ちで
しばらくふらふらと
村中を徘徊しとつたそんな

そんな夜が二月ほど続いてな
ちらほら村人にもそんな娘を
見たつちゅうもんが出てきた

物陰で自慰しとつたんを
見たもんも出てきて

「ありや狐か
なんかに
取り憑かれ
とりやせんか」
なんちゅう
噂まで
立ち始めた

長者もこれには参つた
こんな噂が広まっては婿を取ることができん
わしの代で家が途絶えてしまう
娘を閉じ込めてみたりもしたが
何故か檻には娘の代わりに
石ころが入っておったり
おかしいことばかり
娘の徘徊は続いたのじゃつた



困ったときの神頼み

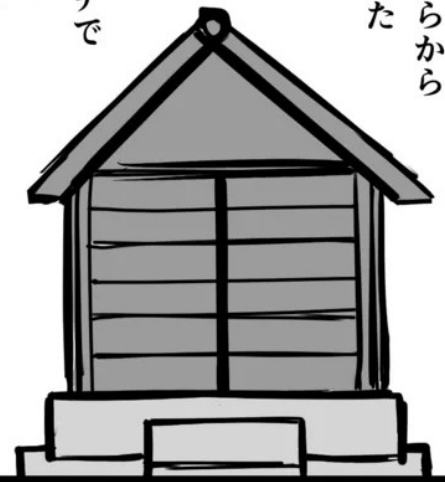
長者は
娘を連れて
山の中にある
ほこらへやってきた

「どうしたら娘の狐憑きが
治りますでしょうか」



するとほこらから
声が聞こえた

「お前はケチで
非道だから
罪を与えた」



「娘を治したくば
村人を苦しめるのを
止めなさい」

…あと毎日ここに
油揚げを供えなさい
こっちのが大事ね



それからというもの
長者は心を入れ替え
村人に優しくなり
年貢はよその村より軽いくらい
にまでなった

娘も徘徊することはなくなり
狐憑きという噂も次第に
聞かなくなっていた

彦作は：
ていうかこの話彦作いる？



いやいやこの話の
全貌を知るためには
まだ役割はあるとも



村人を解放するためとはいえ
関係の無い娘を巻き込んで
しまったことを申し訳なく思い
彦作は娘の元を訪れた

そして自分の頼みが元で
娘が狐に化かされていたことを
正直に伝えた

いえ…仕方のないことです…
父の行いは私も存じて
おりましたから…



それに少々誤解が…
狐さんにお会いしたとき
父を懲らしめたいと
相談を受けまして…

私の秘密を
打ち明けました…



狐さんには
私が囚われそうに
なった際に
家の者を化かして
もらったり…
最後の詰めをして
いただきました…
狐さんには
お手伝いをして
いただいただけ
なんです…

とおつても気持ち良かった…

ハサ…

今まではずうっと
お屋敷の中で誰にも見られぬよう
こそそと…

外に出てもし誰かに見つかりでも
したらあの娘は気が触れていると
思われてしまう…
でも…一度で良いから…

このまま人目につくことは
叶わぬ夢と思っていましたのに…

私は…

最・初・か・ら・壊・れ・て・い・た・の・で・す…



六月九日

狐さんが来て
協力してほしいと
言われました



私の秘密を打ち明け
協力し合うことになりました
これからが楽しみです

夜になりその日のうちに
初めてお屋敷の外へ…



お屋敷の中とは
比べ物にならない解放感…



なんて…素敵な…

六月十三日

今日も夜になり村に行きました
人気のない村というのも
いつもと違って良いものですね



途中犬に吠えられたときは
どうなるかと思いましたが…

ビク



この子が
第一発見者ですね…



七月十四日

ついにその日が訪れました

あのわんことも
すっかり仲良くなり



いつものように
自慰を見てもらって
いました

通行人がいるのにも
気付かずに…



ああ…
私はどうなって
しまうのでしょう…



九月九日

すべてが丸く
おさまりました
夢のような時間も
これで終わり

と
思
っ
て
い
た
の
で
す
が
油揚げをもらいすぎたからと
狐さんから髪飾りを
いただきました

この耳飾り、身につければ
人間でも人を化かすことが
できるというもの

周囲から見たところ

実際

本日は裸でとなりの村までおつかいです
好きなきときに自慰だってできるし

好きなきときに人に見つかることだってできます

隣の村なら
私が私ということも
わからないかな…

夢のような時間は
これから続きます

完

むかしむかしの
ある時代
世を正すため
ある行政機関の
お役目様が存在した

透^{すけ}さん
隠^{かく}さん
もう良い

控えおろう!!

※この物語はフィクションです

この淫紋が
目に入らぬか!!

デデーン

こちらにおわす
お方をどなたと
心得る!

※この物語はフィクションです

畏れ多くも
今代お役目様
美都姫様なるぞ!

皆の者!
頭が高い!
控えおろう!!

※この物語はフィクションです
実在の人物・団体とは関係ありません



お役目様
準備を

お：おう：



デロ



あーん



通和散

当時のいわゆるローション
植物の根を乾燥させた粉薬
粉末状ものを、あるいは成分を
和紙などに染み込ませたものを
唾液で戻して使用した



さっさと
歩かんか！

ええい
わかっておる！



お役目様…
よろしく願ひ
いたします…

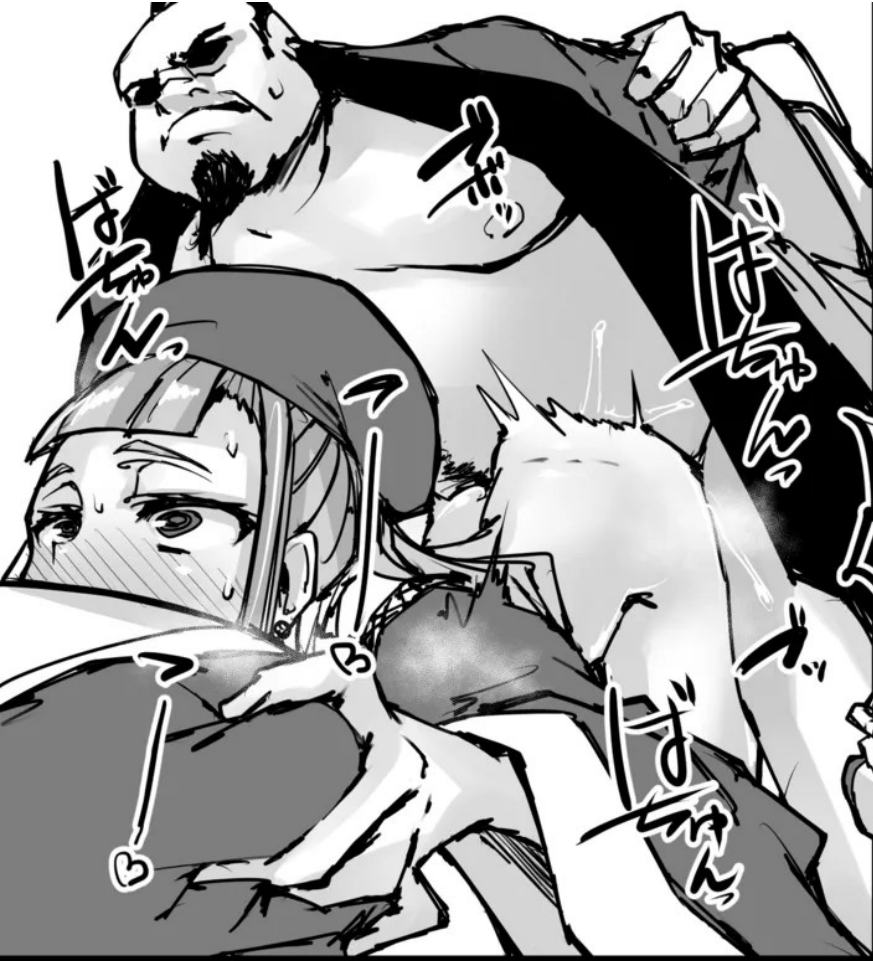


で…でか…
冗談だろ…

お役目様
一般にはご淫行様と
呼ばれる
ある地方、ある家系の
女兒のみが
十十六の頃
お役目を担う

お役目
大きな罪を犯した者の男性器を
お役目様の肛門で直に
清めていただくというもの
更正を願って、辱めのためなど
様々な憶測がされている

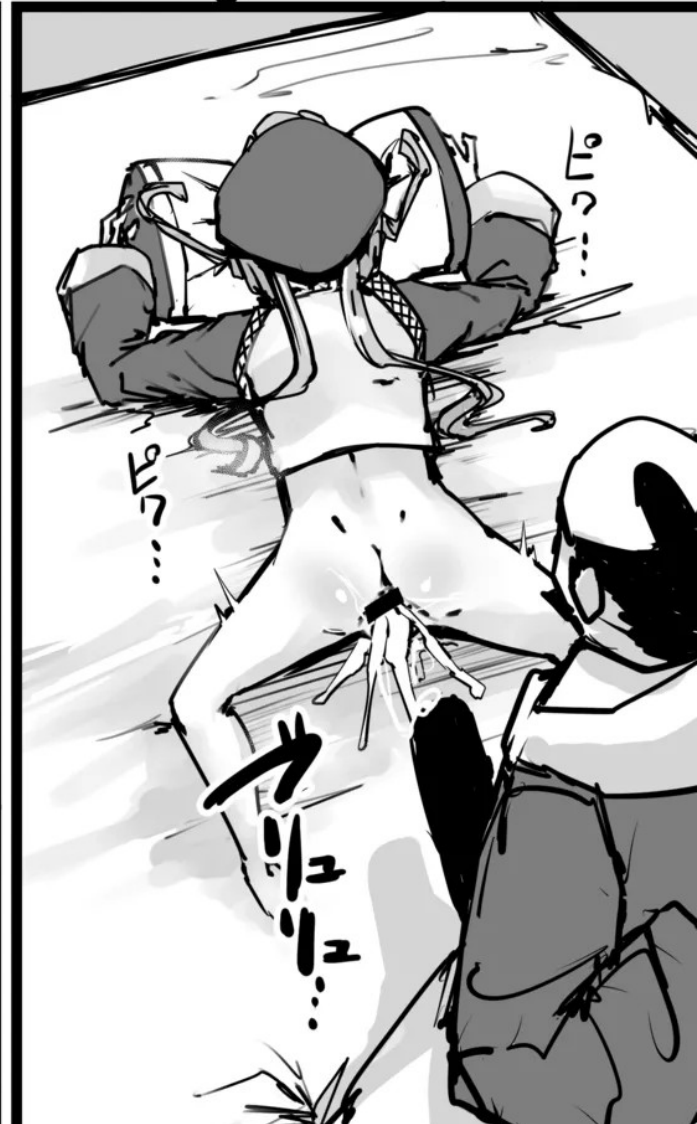




代々お役目様は
八つの頃から
肛門の開発が始まり
十の頃から悪人の
相手をし始める



お役目様が相手をする程の
悪人は何故か昔から男根が
大きい傾向にあり
それに合わせた拡張は
幼子には過酷なものであった

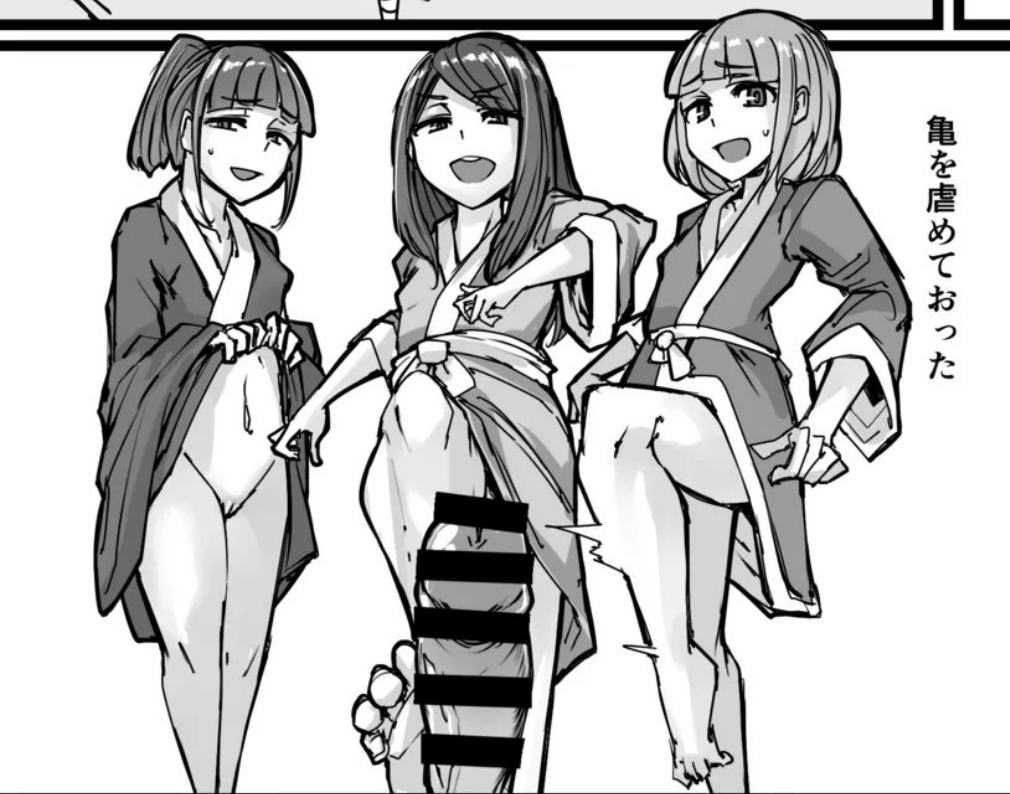




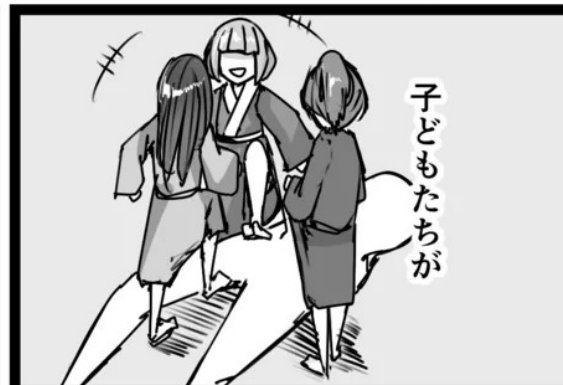
ある日太郎が
例の人目につかない
岩場へ行くと

太郎という
若者がおった

むかしあるところに



亀を虐めておった



子どもたちが



ここが
竜宮城だった
子どもたちは
WIN WINの
関係となった



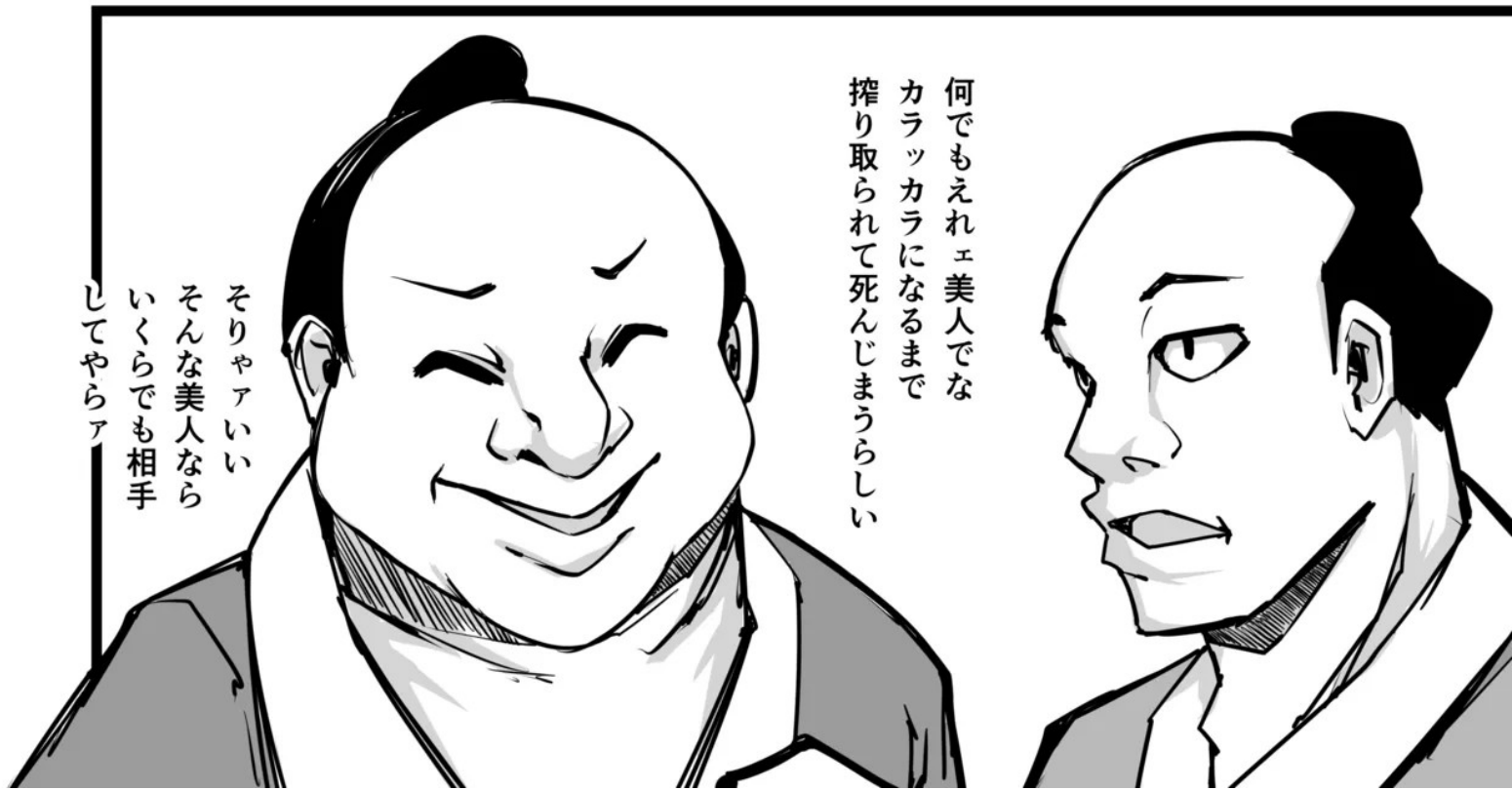
次回予告

♪犬○叉とかコ○ンの次回予告の曲



はア？
なんだそりやあ

オイ聞いたかい
ここで最近
化けモンが出るんだと



何でもえれエ美人でな
カラツカラになるまで
搾り取られて死んじまうらしい

そりやアいい
そんな美人なら
いくらでも相手
してやらア





へえ
精気を吸い尽くす
バケモンねエ



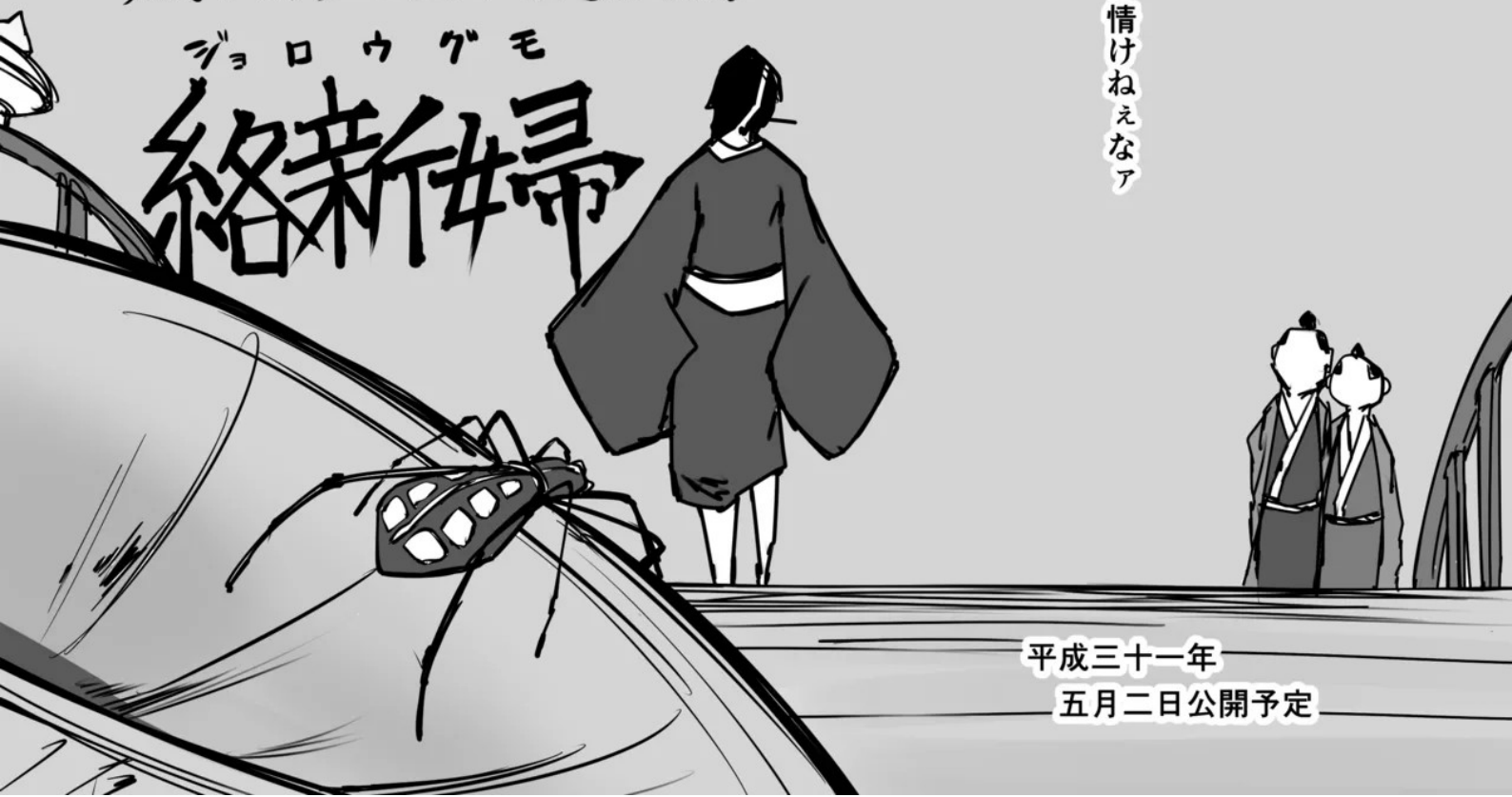
ンなモン
やられた奴が
女一人ロクに満足
させられなかったってエ
だけの話だろオ

劇場版 日本昔話

ジョロウグモ

絡新婦

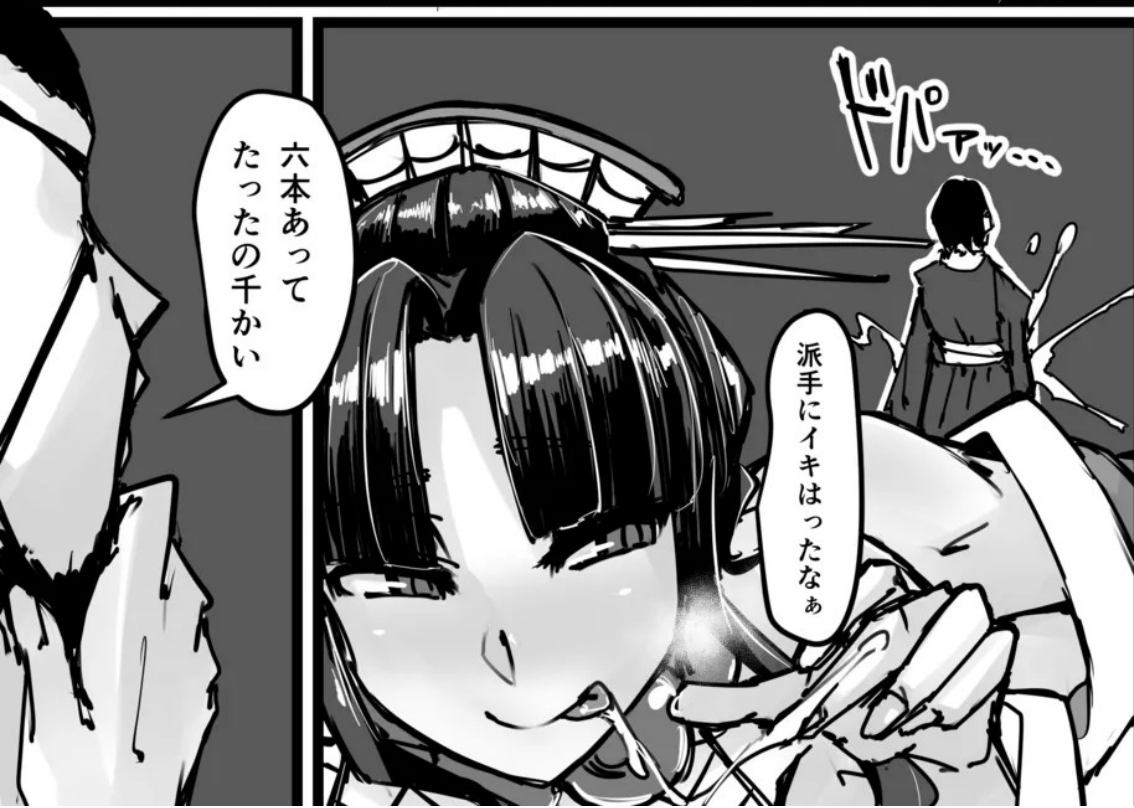
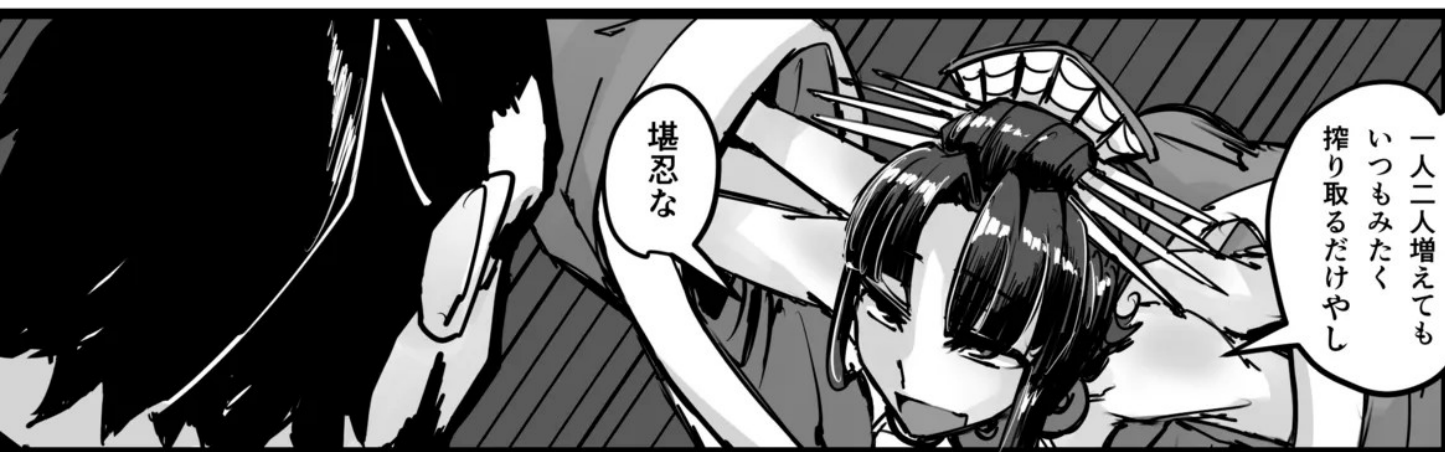
情けねえなア



平成三十一年
五月二日公開予定



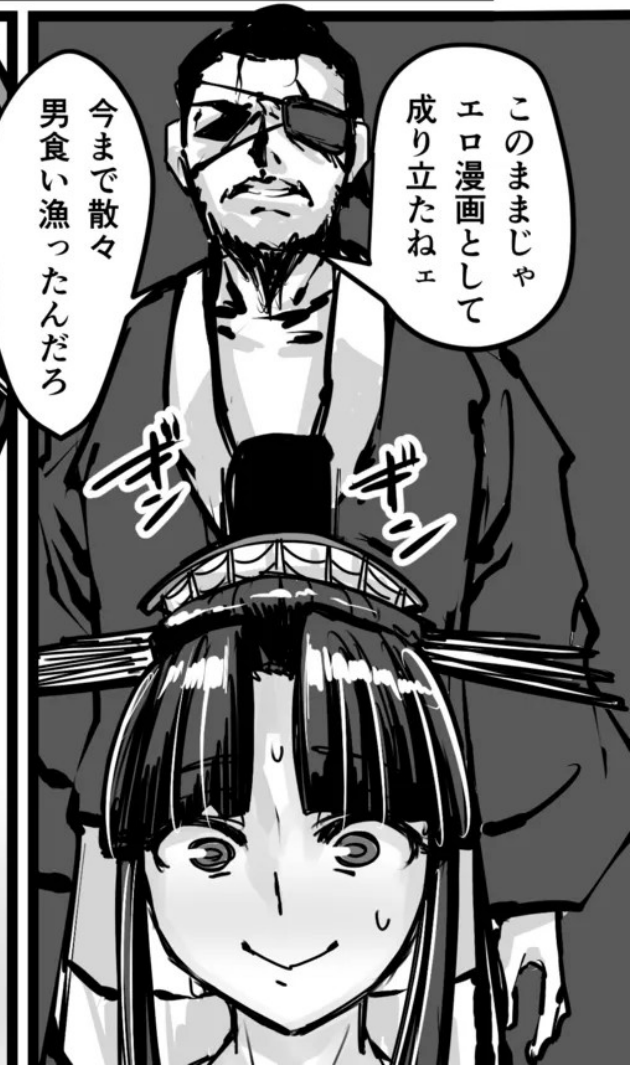
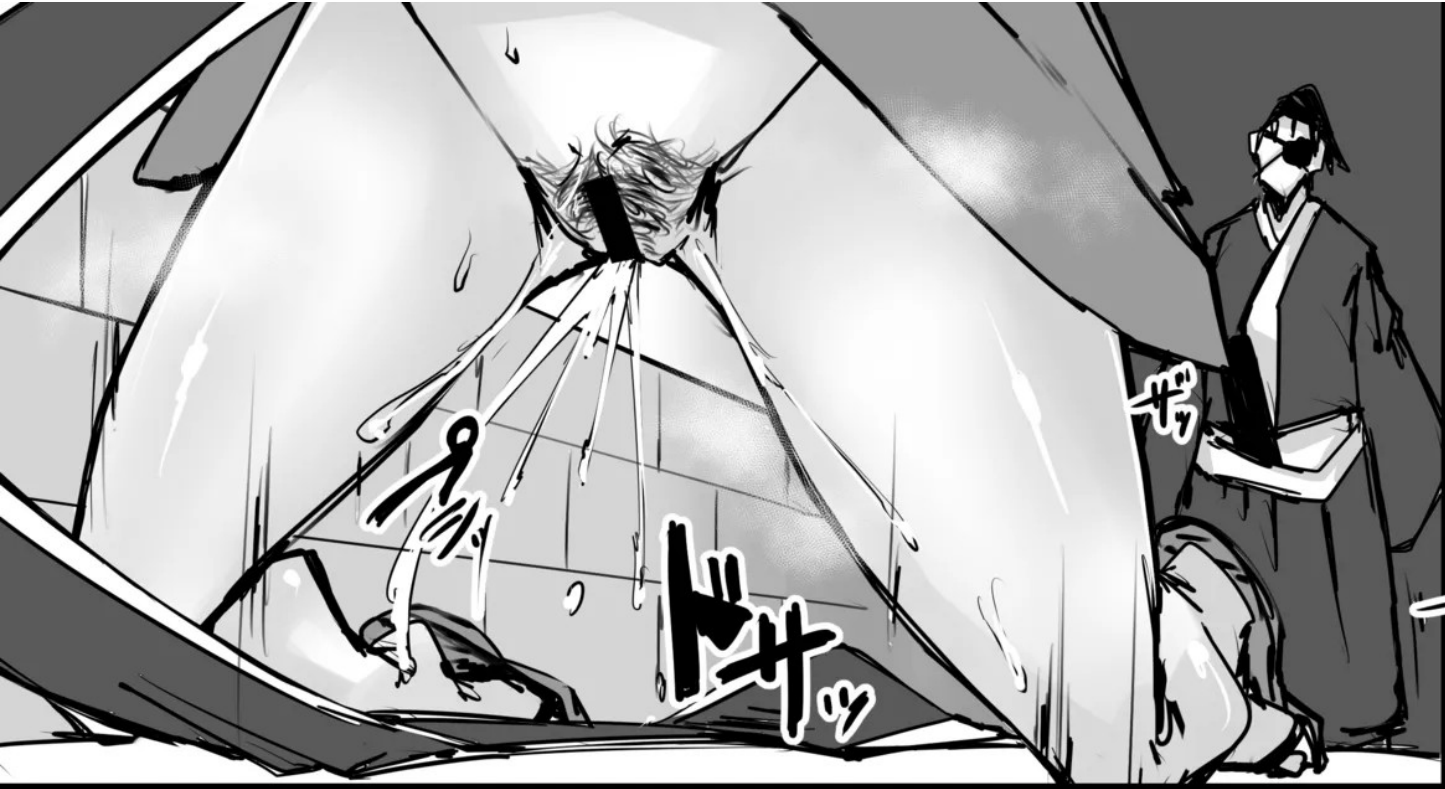
どうにもお偉いさんの
都合で平成五月二日ってのが
存在しちゃうらしく
アレだ





あの一瞬で
高〇名人の
六二五倍...!
ただ速いだけでなく
なんて優しい手つき...!

ギャグエロ漫画
だからって
やっつていいことと
悪いことがある...!!



アカンやつや…



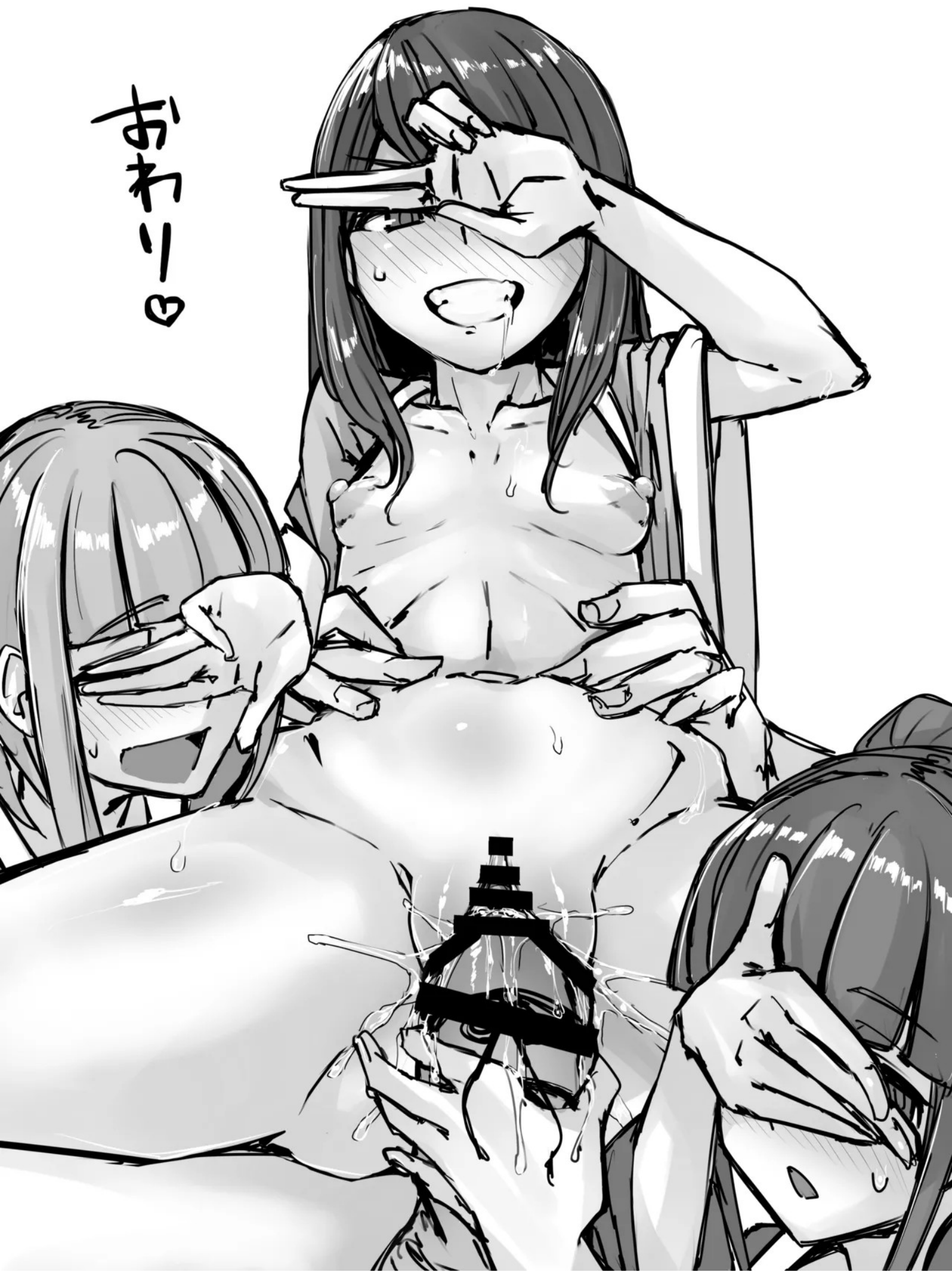
当然
懐かれた

完

この性欲は
この男にしか
解消できないので



おねー



お手に取っていただきありがとうございます！

おかげさまでクソ話2巻目ができました。

今回も好きなように描けて満足です。

好きなように描きすぎてるせいで時代背景とかそのあたり
おざなりになってないかどうかは心配ではありますが…。

通和散とかね…。

雰囲気楽しんでいただければ幸いです。

そして相変わらずのスローペースで申し訳ありません…。
来年はもっと頑張りたいです。

奥付

『日本昔クソ話弐』

サークル：K2マンホール

発行人：P

twitter:P_senpuki_

※18歳未満の閲覧・購入を禁じます。

本書の不正転載・アップロード・複製を禁じます。

K2マンホール